NEWS RELEASE

各位

2026 年 11 月 12 日
セレンディップ・ホールディングス株式会社
（コード：7318　東証グロース）

「セレンディップ・スタンダード」を軸とした独自のホールディング経営
～Danaher の経営手法から得た示唆と、当社独自の実践を紹介～

セレンディップ・ホールディングス株式会社（本社：名古屋市中区、代表取締役社長兼 CEO：竹内　在　以下、当社）は、2026 年 9 月 14 日に開催された第 1 回「ホールディングス・グループ経営モデル研究会」にお招きいただき、当社代表取締役社長兼 CEO の竹内　在が登壇しました。

講演では、当社がシリアルアクワイアラー（継続的に M&A を行う企業）として、承継後の経営改革を支える「セレンディップ・スタンダード」を基盤に実践する、独自のホールディング経営モデルを紹介しました。

■ 研究会について

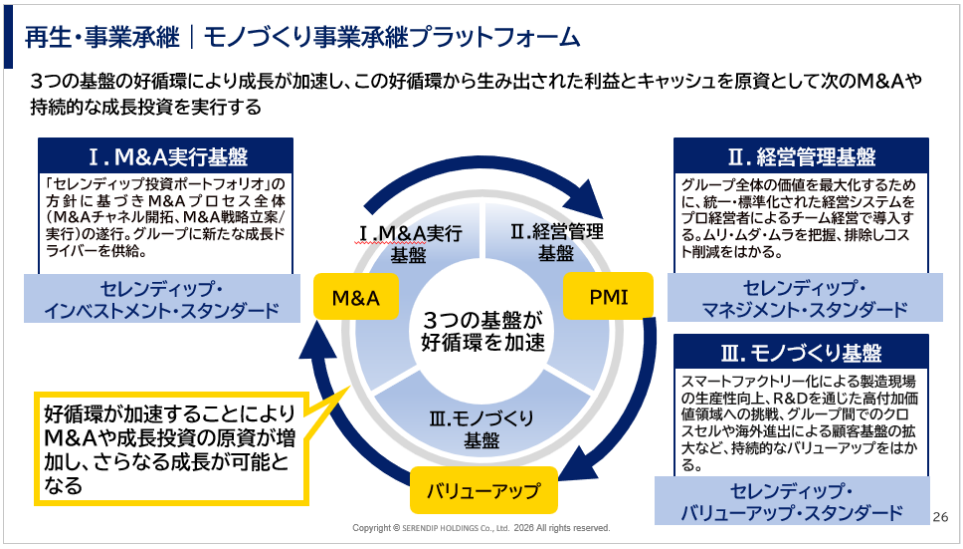
本研究会は、株式会社タナベコンサルティングが「リージョナル・ホールディングス」をメインテーマに、グループ経営の先進事例を学ぶ場として開催しているものです。第 1 回は「グループビジョン」をテーマに、当社は事業承継後の成長を支えるホールディング経営の実践企業としてお招きいただきました。

当日は、講演に加えてパネルディスカッションにも登壇し、ホールディング経営を通じて事業承継を成長につなげる考え方や、ホールディングスと事業会社の役割について意見を交わしました。

▼登壇レポートはこちらから
「個性尊重」と「標準化」～事業承継を成長ビジョンに変える、二つのモノづくりホールディング経営モデル～｜メディアサイト「TCG REVIEW」

■ セレンディップが目指すホールディング経営

講演では、セレンディップ・スタンダードについて、経営管理と製造現場の標準化・見える化に加え、承継先企業にプロ経営者と専門人材をチームで派遣し、経営課題の把握から改革の実行まで深く関与する当社独自の仕組みとして紹介しました。当社は承継後の経営改革を重視し、ホールディングスが経営を担うことで、事業会社がモノづくりに専念できる体制を構築しています。また、財務、人事、IT などの専門機能をホールディングスに集約し、系列や業界の枠を超えたクロスセルなど、中小企業単体では成し得ない取り組みを推進していることも紹介しました。



当社の経営モデルは、代表取締役社長兼 CEO の竹内 在が米国の大学で経営学を学び、その後、経営企画、経営コンサルティング、経営管理システムの実務を通じて培った経営に対する考え方を起点としています。当社は、事業承継後の企業経営を個人の経験や勘に委ねるのではなく、経営管理と製造現場の改善手法を標準化し、再現可能な仕組みとして定着させる取り組みを早くから進めてきました。

こうした実践を通じて独自に体系化したものが、「セレンディップ・スタンダード」です。その高度化に向けて、共通の経営システムを基盤に継続的な改善と成長を実現してきた米国 Danaher Corporation（ダナハー・コーポレーション）をはじめとする海外企業の経営手法も研究し、国内中堅・中小製造業の現場で培った知見と組み合わせることで、日本企業に適した独自の経営モデルとして進化させています。

■ 事業承継後の成長に向けて

当社グループは今後も、「セレンディップ・スタンダード」とプロ経営者を中心としたチーム経営を通じて、承継先企業の強みを生かしながら経営改革を着実に実行してまいります。ホールディングスと事業会社がそれぞれの役割を果たす当社独自のグループ経営モデルをさらに進化させ、経営理念である「100 年企業の創出」と、日本のものづくり企業の持続的な成長と企業価値向上に貢献してまいります。

■ 会社概要

セレンディップ・ホールディングス株式会社

本　　社	愛知県名古屋市中区錦一丁目５番 11 号
設　　立	2006 年８月
代 表 者	代表取締役社長兼 CEO 竹内 在
U　R　L	https://www.serendip-c.com/
事業内容	経営受託及び事業再生、投資事業、経営コンサルティング

【本件に関するお問合せ先】

セレンディップ・ホールディングス株式会社

IR 広報担当：E-mail: pr@serendip-c.com